



第6期 HOPE育成プログラム 概要説明資料

オリンピック強化委員会 推進事業



2026年1月23日
オリンピック強化委員会

JSAF会長からのご挨拶

オリンピックでのメダル獲得を志す次世代選手、保護者の皆様へ

日頃よりセーリングの競技力向上にご尽力を賜り誠にありがとうございます。

セーリングは、男女・年齢を問わず、また障がいの有無に関わらず、誰もが自分に合った楽しみ方ができる価値を持つインクルーシブ、かつジュニアからシニアまで世代を超えて楽しむことが可能なシームレスなスポーツです。私自身、Tokyo2020大会後に河野前会長からこの考え方を引き継ぎ、会長就任以来セーリングの価値向上に連盟として取り組んで参りました。

オリンピック競技でのメダル獲得は、この素晴らしく広い裾野と奥行きを持ったスポーツの底力を示す一つの指標であると言え、2024年のParis2024大会においては悲願の銀メダル獲得を達成することが出来たことを非常に喜ばしく思うと共に、この高い目標を継続的に達成し、競技団体として成長を実現をしていくために、次世代選手の発掘・育成が最も重要な課題のひとつであることを改めて認識している次第です。

「HOPE育成プログラム」はこの大きな目標を達成するための我々のチャレンジの一つとして、2021年から取り組みを行っているものです。

この度、このチャレンジに皆様とともに進めていけることを非常に喜ばしく感じています。

ともに手を携えて、学びながら、我が国のセーリングの未来を創っていきましょうではありませんか。



(公財) 日本セーリング連盟
会長 馬場 益弘

はじめに

オリンピック強化委員会ではLA2028大会に向けた強化活動を行うにあたって以下3つの方向性を掲げています。

1. **より強く(Enhance)** : LA2028大会での連続メダル獲得(470クラス)、1種目以上の入賞
2. **よりひろく(Expand)** : LA2028大会に向けた次世代強化/LA2028大会での国粋獲得種目の維持・拡大
3. **未来へ繋げる(Lead to the future)** : Brisbane2032大会以降を見据えた持続的成長可能な組織体制整備

2021年1月からスタートした「HOPE育成プログラム」においては、上記の2. **よりひろく(Expand)**の中核をなすプロジェクトとして、プログラムに参加した次世代を担う若手選手が、最終的にはオリンピックで実績を残し、かつ人間力を兼ね備えた素晴らしいセーラーに成長していく為の明確なパスウェイをイメージしていけるよう、仕組みを整えています。

更に、プログラム内容の拡充についても継続的に取り組み、選手のスキル・知識・人間力を高めることによって強固な基礎を固めていくとともに、選手がトップセーラーへと成長する過程の中で、目標とするWorld Sailingユースワールド大会やオリンピッククラスのJrワールド大会での金メダル獲得を目指します。

オリンピック強化委員会として、チーム一丸となって次世代を担う若手選手の育成に取組み、選手同士が健全な競争意識を持ち、高め合うことのできる場を提供して参ります。



オリンピック強化委員会
委員長 宮本 貴文

SAILING TEAM JAPAN



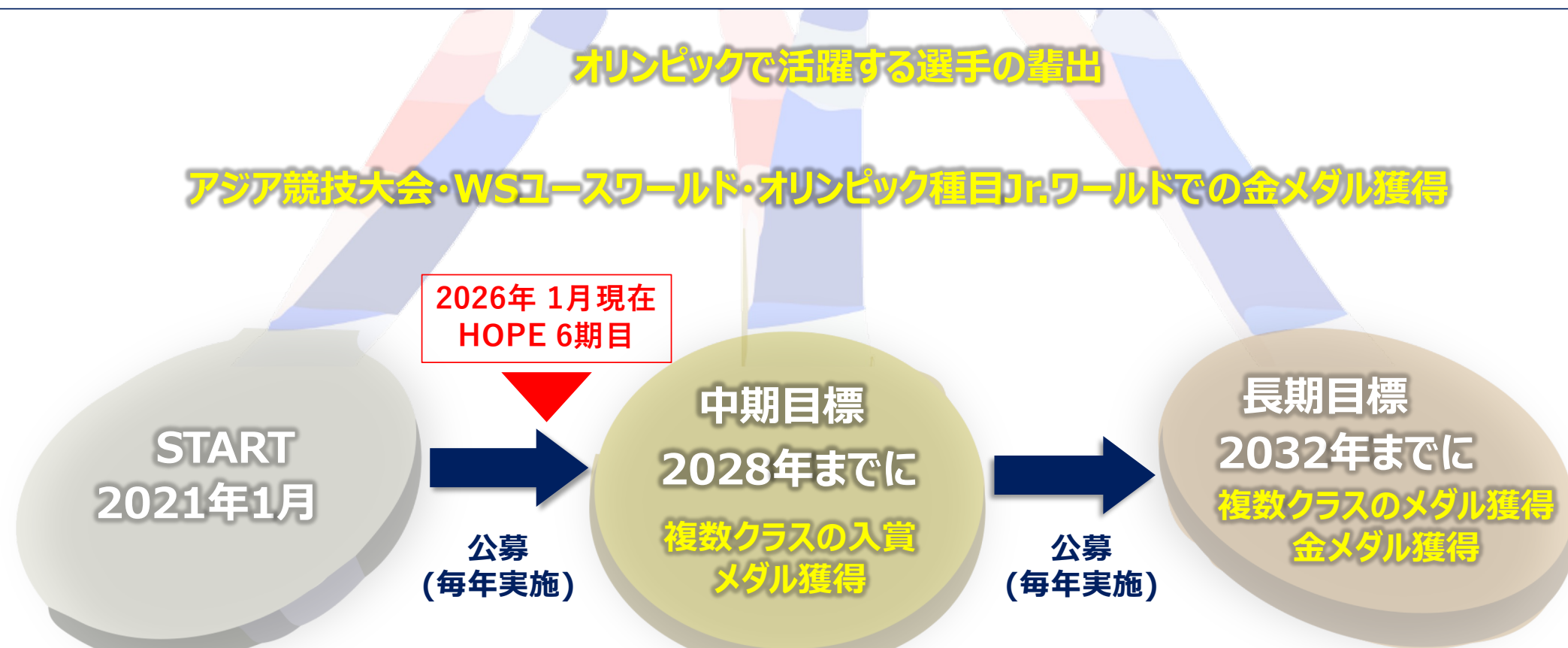
JAPAN SAILING FEDERATION



オリンピック強化委員会
SAILING TEAM JAPAN

HOPE育成プログラムの目的・第一目標

- 「HOPE育成プログラム」は、WSユースワールド/種目別Jr.ワールドなどでの優勝を第一目標とし、オリンピックで活躍する選手の輩出を目的としています。
- 併せて、2026年9月に愛知・名古屋で開催されるアジア競技大会において、複数クラスの入賞およびメダル獲得を目標とします。
- プログラムは2025年1月～2028年12月の4年間を一つのタームとして捉え、長期的な育成計画を展開します。



育成の3ステップ

- Basic、Advance、Racingの各ステップを1年単位のプログラムで構成し、レベルに合わせた専門カリキュラム(*1)を設定すると共に、海外への遠征・合宿などのサポート条件(*2)を設けています。また、各ステップにおいては明確な認定(継続)条件(*3)を設定し、在籍選手間での健全な競争を喚起し、適切な循環・入替えが起きていくこと企図しています。

(*1)詳細についてはスライド16～18枚目ご参照
(*2)詳細についてはスライド7、9、11枚目ご参照
(*3)詳細についてはスライド8、10、12枚目ご参照

Racing

- ✓ 国際大会における安定した好成績獲得を目指す
- ✓ 自身で考え、積極的に行動・改善できる力を身に付けた「自立した選手」を目指し、積極的な海外遠征・合宿と、オーダーメイドでの国内合宿等を実施
- ✓ 海外大会遠征において手厚いサポートを設定

Advance

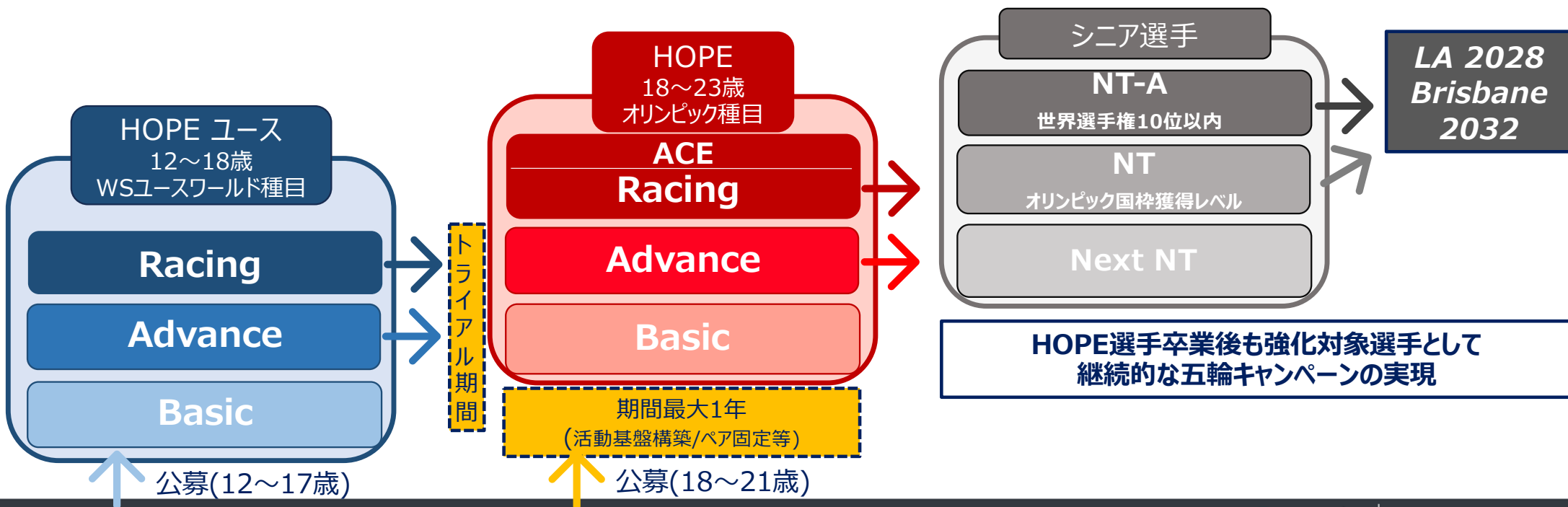
- ✓ Basicで得た知見を自らの艇種にフィードバックし、各分野のスキルについてブラッシュアップを図りながら、HOPE Racingを目指す
- ✓ 国内での個別強化と、得られた知見等を確認する場として国際大会に参加

Basic

- ✓ セーリングに必要な知識についてインプット・アウトプットを繰り返す基礎固め期間の位置づけ
- ✓ 各分野の専門スタッフによる講習/実技指導を受講し知識を高め、合宿内外でアウトプットを行うルーティンを確立する

HOPE育成プログラムの階層構造

- 原則として12～18歳の選手は「HOPEユース選手」に区分され、WSユースワールド・アジア競技大会での金メダル獲得に向けてWSユースワールド・アジア大会採用種目に取り組めます。
- 18～23歳までの選手は「HOPE選手」に区分され、種目をオリンピック種目に切り替え、同種目での活動とJr.ワールドでの金メダル獲得に目標を定めて活動を行います。
- それぞれの区分で目指すべき目標が異なるため合宿内容については違いがあり、ユースから移行の際にはオリンピック種目への移行準備期間として、最大1年間のトライアル期間が設けられています。
- 各区分にはBasic, Advance, Racing(+ACE)の3つの階層が存在し、選手レベルに応じた学習・補助内容が設定されます。



HOPEユースのコンセプト、補助内容等

- HOPEユースはセーリング未経験者から高校等で経験を積んだ選手まで幅広い層を対象とし、WSユースワールド・アジア競技大会での優勝、ユース国際大会での継続的な入賞を最終目標に定めています。プログラムは年12回のHOPEユース合宿と、個別強化の2種で構成されています。
- 本期間において在籍選手は必要な知識とアスリートに求められる身体能力を身につけ、インプット/アウトプット/コーチによるフィードバックを繰り返しながら、ユース種目で世界で結果を残せるレベルに至ることが求められ、Advance昇格の時点で同世代の国内トップに位置する必要があります。
- HOPEユース合宿時の学習内容は非常に多岐に亘るため、**原則的に全てのHOPEユース合宿に出席を頂く必要があります、認定の継続・取り消し要件として高い水準の出席率を設けています。**また、カリキュラムの特性上、合宿期間中に希望種目に乗艇できない場合もあります。

●合宿内容/補助内容

・HOPE ユース 合宿

・年間12回(72日)実施

・合宿時使用する種目：
ILCA6,420,29er,iQFOiL他
(カリキュラム内容を鑑み希望種目に乗艇しない場合有)

・WSユースワールドに向けた乗艇
種目・ポジションは早い段階で選
手・コーチとの協議によって決定



・追加補助内容(*1)(*2)

HOPE ユース Racing

- ・海外国際大会遠征補助1回+海外合宿1回
- ・個別強化の実施
- ・国内大会帯同

HOPE ユース Advance

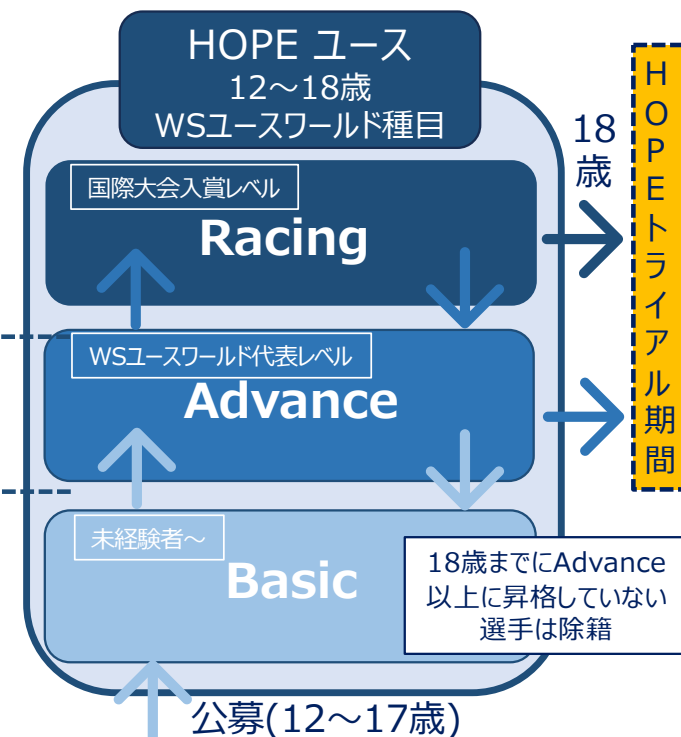
- ・海外合宿1回
- ・個別強化の実施
- ・国内大会帯同

HOPE ユース Basic

- ・個別強化の実施
- ・国内大会帯同(*年間計画書に基づき指定)

(*1)実際の補助適用可否はコーチ間協議により決定します

(*2)20%自己負担を原則とします



JAPAN SAILING FEDERATION



オリンピック強化委員会
SAILING TEAM JAPAN

HOPEユース選手の認定サイクル表

分類	認定条件 ^{(*)1}	対象年齢	認定期間	2026年12月時点 認定継続条件 ^{(*)1}	降格後分類	定員
HOPE ユース	Racing ^{(*)2} 公募 選手 ■シード選手 ・前年度/今年度のユースワールド/種目別ワールド(WSユースワールド種目) 10位以内 ^{(*)3)(*)4} ■下記対象大会のいずれかで下記以上の成績を獲得し、かつ下記1.2.3.全てを満たす者 ・WSユースワールド/種目別ワールド(WSユースワールド種目) 10位以内 ^{(*)4} 1.昇格筆記テストにおいて成績8割以上 2.コーチ陣による定性的評価 ^{(*)5} 3.その他認定期間中の認定継続条件を全て満たしている者 ^{(*)5}	認定時 18歳以下	認定条件を 満たした翌年の 1/1から12/31 まで	■下記1.2.全てを満たす者 ^{(*)6} 1.コーチ陣による定性的評価 ^{(*)5} 2.その他認定期間中の認定継続条件を全て満たしている者 ^{(*)5}	Advance	最大 30名 (全分 類合 算)
	Advance ^{(*)2} ■下記対象大会のいずれかで下記以上の成績を獲得し、かつ下記1.2.3.全てを満たす者 ・WSユースワールド大会/種目別ワールド(WSユースワールド種目)/種目別ヨーロッパ(WSユースワールド種目)/iQFOiL Uカテゴリーワールド 50%以内 ^{(*)4)(*)7} 1.昇格筆記テストにおいて成績8割以上 2.コーチ陣による定性的評価 ^{(*)5} 3.その他認定期間中の認定継続条件を全て満たしている者 ^{(*)5}	13歳以上 18歳以下		■下記対象大会のいずれかで下記以上の成績を獲得し、かつ下記1.2.全てを満たす者 ^{(*)6} ・WSユースワールド大会/種目別ワールド(WSユースワールド種目)/種目別ヨーロッパ(WSユースワールド種目)/iQFOiL Uカテゴリーワールド 50%以内 ^{(*)4)(*)7} 1.コーチ陣による定性的評価 ^{(*)5} 2.その他認定期間中の認定継続条件を全て満たしている者 ^{(*)5}	Basic/ なし(除籍) ^{(*)9}	
	Basic 公募 ・ 選手 ■シード選手 下記のいずれかの成績を獲得し、選考 ^{(*)10} で合格した者 ・前年度/今年度のOP級 世界選手権代表選手 ・前年度/今年度の種目別全日本(WSユースワールド種目) 5位以内(U19) ^{(*)8} ・前年度/今年度のWSユースワールド代表 ・ダブルハンドクラスでペア応募の選手 ・前年度/今年度のユースワールド/種目別ワールド(WSユースワールド種目) 10位以内 ^{(*)3)(*)4} ■クルー候補選手 / トライアル選手(一般応募) 選考 ^{(*)10} で合格した者	2026年 3月31日 時点年齢： 12～17歳		■下記1.2.全てを満たす者 1.コーチ陣による定性的評価 ^{(*)5} 2.その他認定期間中の認定継続条件を全て満たしている者 ^{(*)5}		

(*)1 認定(継続)条件を満たす場合、オリンピック強化委員会にて「強化認定小委員会」を開催し、認定の可否について採決を行う。「ナショナルチーム等強化対象者規程」等への違反が認められる場合、認定期間中であっても認定取消しを行う場合がある

(*)2 オリンピック種目で活動を並行して行い、HOPEの認定条件/認定継続条件に記載される大会成績を納めた者は、HOPE選手としての補助内容を並行して獲得できる

(*)3 シングルハンドクラス及びダブルハンドクラスでペアでHOPE育成プログラム入りする選手はHOPEユースRacingから開始。その他の選手はHOPE ユースBasicから開始となる

(*)4 同一フリート内に設定されるUカテゴリーについては対象外とする

(*)5 別途期中に認定継続条件/認定取消し要件あり：フィジカル基準値(体力測定毎)、プログラム出席率(毎回)、コーチ評価(3ヵ月毎)。詳細は『HOPE育成プログラム概要説明資料』の「認定期間中の認定取り消し要件について」を参照のこと

(*)6 2026年末までに18歳の誕生日を迎える選手は認定継続条件を満たした上で、HOPE Basic/Advance トライアル期間へ移行

(*)7 少数点以下は切り捨て。全レースDNCとなった艇については、参加艇数としてカウントしない

(*)8 参加艇数が10艇以下の場合は優勝のみを対象とする

(*)9 「強化認定小委員会」にて判断を行う

(*)10 シード選手、クルー候補選手の一次試験は免除

HOPEトライアル期間のコンセプト

- HOPEユースは18歳になる年度の12月で修了となり、所定の認定継続条件を満たす選手はHOPEトライアル期間に移行します。また、公募に合格した18歳以上の選手は本期間からのスタートとなります。
- 本期間はWSユースワールド種目からオリンピック種目への移行期間に位置づけられて、ペアの選定、練習環境・活動資金の確保といった自身の競技基盤を整え、キャンペーンを開始するための準備を行う期間として**最大1年間の在籍**が認められています。同期間においては国際大会等での成績は求められず、合宿に参加しつつ環境を整えることに専念して頂きます。環境が整った選手は、オリンピック艇種での中長期的な活動計画を作成し、そちらが認定されればHOPEの活動が開始できます。
- 公募によって本期間に入った選手については、HOPEユース合宿への同時並行参加が認められており、自らに足りていない分野について適宜キャッチアップをする機会が設けられています。
- HOPEにおいて活動している選手に何らかの理由によりペア解散や艇種変更等の事象が生じた場合、一旦トライアル期間に戻って再度体制を整えて頂く期間としています。（HOPE Racing、HOPE Advanceについては1ランクの降格処置を伴います）

●合宿内容/補助内容

・HOPE 合宿

- ・年間5回の合宿(2回の体力測定会を含む)について参加義務有り。
- ・キャンペーンを実施している選手と時間を共有することで、必要なノウハウについて学習する



・追加補助内容(*1)

- ・個別強化合宿への参加

(*1)20%自己負担を原則とします

・HOPE ユース 合宿

- ・適宜参加可能
- ※ユースからの昇格組を除く



HOPEトライアル期間の認定サイクル表

分類		移行条件(公募条件) ^{(*)1} (①HOPE→トライアル、②HOPEユース→トライアル、③公募(18歳以上))	移行条件 ^{(*)1} (トライアル→HOPE)	対象年齢 ^{(*)2}	期間	認定継続条件(月次) ^{(*)1}	認定取 消 後 分類	定員
HOPE トライアル 期間	Advance	① ■HOPE Racingに所属しており、何らかの理由によりペアの変更・解散や艇種の変更等、現行の体制での活動が不可となったが、HOPE選手としての活動継続の意思を有する者 ^{(*)3}	■オリンピック種目について ①ペアの確保(ダブルハンドの場合) ②競技艇 ③個人活動サポート体制等についての明確な見通しを含む活動計画書及び活動宣言書をオリ強宛に提出し、承認を受けた者 ^{(*)3}	18歳以上 23歳になる年の種目別ワールド/Jr.ワールドのいずれか遅い方の最終日まで	■トライアル期間への移行決定(公募選手は合格後)からHOPEへの移行が決定するまで ■連続最大在籍期間1年間 ^{(*)4}	a. 下記1.2.3.全てを満たす者 1. 月次で活動実績報告書・活動計画書をオリ強宛に提出し、承認を受けた者 ^{(*)3} 2. その他認定期間中の認定継続条件(HOPE)を全て満たしている者 ^{(*)5} 3. コーチ陣による定性的評価 ^{(*)5} ※傷病による療養期間中の場合：フィジカル測定基準値は、スタッフとの協議に基づき、それぞれの状態に応じて適宜変更した上で適用される	なし (除籍)	最大 30名 (全分類合算)
		② ■HOPE ユース Racingに所属しており、HOPEユースRacing選手の認定継続条件を満たしている者 ^{(*)3} ・認定は2026年12月時点で実施		2026年3月31日 時点年齢：18歳				
	Basic	① ■HOPE Advance/Basicに所属しており、何らかの理由によりペアの変更・解散や艇種の変更等の検討の必要性が生じ、現行の体制での活動が不可となったが、HOPE選手としての活動継続の意思を有する者 ^{(*)3}		18歳以上 23歳になる年の種目別ワールド/Jr.ワールドのいずれか遅い方の最終日まで				
		② ■HOPEユースからの継続生 HOPEユースAdvance選手の認定継続条件を満たしている者 ^{(*)3} ・認定は2026年12月時点で実施		2026年3月31日 時点年齢：18歳				
		③ ■シード選手 下記のいずれかの成績を獲得し、選考 ^{(*)6} で合格した者 ・WSユースワールド代表経験選手 ・前年度/今年度の種目別全日本(WSユースワールド種目) 5位以内(U19) ^{(*)7} ・前年度/今年度のオリンピック種目別 全日本 5位以内 ^{(*)7} ・前年度/今年度のインカレ個人戦(470級) 5位以内 ^{(*)7} ・ダブルハンドクラスでペア応募の選手		2026年3月31日 時点年齢：18～21歳				

(*)1 移行条件・認定継続条件を満たす場合、オリンピック強化委員会にて「強化認定小委員会」を開催し、移行・認定の可否について採決を行う。「ナショナルチーム等強化対象手規程」等への違反が認められる場合、認定期間中であっても認定取消しを行う場合がある

(*)2 HOPEユース対象年齢の選手で、オリンピック種目で顕著な成績を収める等の目立った活躍が見られた場合、本対象年齢以下であってもHOPEトライアル期間への編入を認めることがある。本件判断については本人の希望に基づき「強化認定小委員会」にて行う

(*)3 「強化認定小委員会」にて判断を行う

(*)4 トライアル期間に移行した日から1年間と1日が経過した時点でHOPEへの移行が達成されていない場合、除籍とする

(*)5 期中に認定継続条件/認定取消し要件あり：フィジカル基準値(体力測定毎)、プログラム出席率(毎回)、コーチ評価(3ヵ月毎)。詳細は『HOPE育成プログラム概要説明資料』の「認定期間中の認定取り消し要件について」を参照のこと

(*)6 シード選手、クルー候補選手の一次試験は免除とする

(*)7 参加艇数が10艇以下の場合は優勝のみを対象とする



JAPAN SAILING FEDERATION



オリンピック強化委員会
SAILING TEAM JAPAN

HOPEのコンセプト

- オリンピック種目で継続的活動が可能な選手が、同種目で活動を開始し、国際大会に継続的に出場しながら、Jr.ワールドでの金メダル獲得を目指します。プログラム修了後にはNT/NT-Aとなり、オリンピックでの入賞・メダル獲得レベルの活躍が期待されます。
- HOPEユースと比較し即戦力の育成・強化の側面が強く、HOPE Basicの段階で海外主要国際大会出場の補助を得つつ、初年度からオリンピック種目Jr.ワールド等での一定の結果が求められる設計となっています。
- 合宿については強風・高波のコンディションが期待できる冬季の座間味合宿を中心に据え、各種目の乗り込みを重視すると共に、年間計画表に沿ったコーチによる個別強化を実施し、個人のレベルに応じたきめ細やかな強化プランを実行します。
- Jr.ワールドでメダルを獲得した選手はACE選手に指定し、オリンピックでのメダル獲得を視野に入れた特別強化を実施します。

● 合宿内容/補助内容

・HOPE 合宿

- ・年間5回(約33日)実施
- ・冬期の座間味冬季合宿(合計29日間)による、強風・高波コンディションでの各種目乗り込みを実施
- ・NT・シニア強化選手とのタイアップやレース参戦等、実戦に即した強化の実行

・追加補助内容(*1)(*2)

ACE

- ・海外遠征等含むオーダーメイド強化 内容は協議により決定

HOPE Racing

- ・海外国際大会遠征補助3回 + 海外合宿1回、およびスタッフ帯同補助(*年間計画表に基づき判断)
- ・国内大会帯同等、個別強化の実施

HOPE Advance

- ・海外国際大会遠征補助2回 + 海外合宿1回
- ・国内大会帯同、個別強化の実施

HOPE Basic

- ・海外国際大会遠征補助1回 + 海外合宿1回
- ・国内大会帯同(*年間計画書に基づき指定)、個別強化の実施

(*1)実際の補助適用可否はコーチ間協議により決定します

(*2)20%自己負担を原則とします

活動宣言・計画書提出によりHOPE移行。ペア解散・艇種変更等でトライアルに戻る場合あり

トライアル期間

HOPE
18~23歳
オリンピック種目

ACE
Racing

Advance

Basic

23歳になる数え年の種目別ワールド最終日をもって卒業し、シニアとして活動開始



JAPAN SAILING FEDERATION



オリンピック強化委員会
SAILING TEAM JAPAN

HOPE選手の認定サイクル表

分類		認定条件 ^(※1)		対象年齢	認定期間	2026年12月時点 認定継続条件 ^(※1)	降格後の分類	定員
		移行 (トライアル→HOPE)	HOPE内昇格					
HOPE	ACE		■ 下記Racing認定条件のうち、指定大会のいずれかでメダルを獲得し、かつオリ強が妥当と認めた者 ^(※2)	18歳以上 23歳になる年の種目別ワールド/Jr.ワールドのいずれか 遅い方の最終日まで	認定条件を満たした翌年の 1/1から12/31まで (最終期日:23歳になる数え年の種目別ワールド/Jr.ワールドのいずれか遅い方の最終日まで)	■ 下記1.2.全てを満たす者 1.コーチ陣による定性的評価 ^(※3) 2.その他認定期間中の認定継続条件を全て満たしている者 ^(※3)	トライアル Advance or Racing	最大 30名 (全分類合算)
	Racing		■ 下記対象大会のいずれかで下記以上の成績を獲得し、かつ下記1.2.全てを満たす者 ・ジュニア/Uカテゴリー種目別ワールド 10位以内 ^{(※4)(※5)} ・ジュニア/Uカテゴリー種目別ヨーロッパ 10位以内 ^{(※4)(※5)} ・オリンピック種目別ワールド NTの認定条件に準ずる ・プリンセスソフィア大会 NTの認定条件に準ずる 1.コーチ陣による定性的評価 ^(※3) 2.その他認定期間中の認定継続条件を全て満たしている者 ^(※3)			■ Racing昇格条件に準ずる	トライアル Advance or Advance	
	Advance	■ ①ペアの確保(ダブルハンドの場合)、②競技艇、③個人活動サポート体制等についての明確な見通しを含む活動計画書及び活動宣言書をオリ強宛に提出し、承認を受けた者 ^(※3)	■ 下記対象大会のいずれかで下記以上の成績を獲得し、かつ下記1.2.全てを満たす者 ・ジュニア/Uカテゴリー種目別ワールド 50%以内 ^{(※4)(※6)} ・ジュニア/Uカテゴリー種目別ヨーロッパ 50%以内 ^{(※4)(※6)} ・オリンピック種目別ワールド NEXT-NTの認定条件に準ずる ・プリンセスソフィア大会 NEXT-NTの認定条件に準ずる 1.コーチ陣による定性的評価 ^(※3) 2.その他認定期間中の認定継続条件を全て満たしている者 ^(※3)			■ Advance昇格条件に準ずる	トライアル Basic or Basic/ なし(除籍) ^(※2)	
	Basic					■ 下記1.2.全てを満たす者 1.コーチ陣による定性的評価 ^(※3) 2.その他認定期間中の認定継続条件を全て満たしている者 ^(※3)		

(※1) 認定(継続)条件を満たす場合、オリンピック強化委員会にて「強化認定小委員会」を開催し、認定の可否について採決を行う。「ナショナルチーム等強化対象手規程」等への違反が認められる場合、認定期間中であっても認定取消しを行う場合がある

(※2) 「強化認定小委員会」にて判断を行う

(※3) 別途期中に認定継続条件/認定取消し要件あり：フィジカル基準値(体力測定毎)、プログラム出席率(毎回)、コーチ評価(3ヵ月毎)。詳細は『HOPE育成プログラム概要説明資料』の「認定期間中の認定取り消し要件について」を参照のこと

(※4) 同一フリート内に設定されるUカテゴリーについては対象外とする

(※5) 参加艇数が30艇以下の場合にはメダルを獲得した者のみを対象とする

(※6) 小数点以下は切り捨て。全レースDNCとなった艇については、参加艇数としてカウントしない

認定期間中の認定継続要件について

- HOPE(トライアル期間を含む)、HOPEユース選手は、認定期間中において主にプログラム出席率とフィジカルテストについての下記認定継続条件を満たし続ける必要があり、下記の解除要件に該当する場合は、認定期間中であっても認定が取り消されます。

認定継続条件

- ✓ 年間プログラム参加率(*1)が80%(*2)以上であり、かつ各合宿への参加率(*1)が50%(*2)以上であること
- ✓ 年2回(HOPE・HOPEユース共通)のフィジカルテストにおいて設定された個人目標値を全て達成すること
- ✓ 選手・コーチ間で話し合い定めたコーチ評価個別目標を、指定期限(3ヶ月毎)までに達成すること
- ✓ HOPE選手については、ユース合宿への参加も出席率に反映する

(*1)参加率算出方法：(参加日数＋公欠日数)/プログラム(合宿)日数×100

(*2)小数点以下は切り捨て

【公欠時の要対応事項】

欠席理由が以下項目に該当する場合は公欠扱いとし、上記参加率算出時に当該欠席日については出席とカウントする。

公欠申請する場合は「HOPE育成プログラム欠席届兼公欠認定願書」を参加申込み締切り日までに提出のこと。提出ない場合は公欠を認めない。

公欠対象項目：インカレ・インターハイ・国スポ・全日本大会及び各水域予選 / 海外大会及び予選大会 / 海外合宿 / 学校公式行事 / 冠婚葬祭 / 傷病(*3)

その他：急な発熱等があった場合は、担当責任者にメールで伝達し、欠席届を提出すること。

(*3)医師の診断書提出およびトレーナー統括の確認を必須とする

認定解除要件

以下事項に該当する場合はオリンピック強化委員会にて「認定小委員会」を開催し、当該選手の認定取消について協議し決定する

- ✓ (各)プログラム参加率/フィジカルテストが継続条件を満たさないことが確定した場合（解除のタイミング：確定した月の月末）
- ✓ 3合宿連続不参加(公欠での不参加を含む)の場合（解除のタイミング：3回目の合宿開催月の月末）
- ✓ 年2回(HOPE・HOPEユース共通)で実施するフィジカルテストにおいて設定された個人目標値を全て達成すること（解除のタイミング：未達成となった月の末日）
- ✓ コーチ評価個別目標を指定期限(3ヶ月毎)までに達成できなかった場合(解除のタイミング：確定した月の月末)
- ✓ ナショナルチーム等強化対象選手規程への違反等が認められた場合（解除のタイミング：即時）



JAPAN SAILING FEDERATION



オリンピック強化委員会
SAILING TEAM JAPAN

HOPE合宿期間中に実施するトレーニングのコンセプト

- 目標とするレースにおいて最高の競技パフォーマンスを発揮するためには、選手の現在の競技レベルの高低とは関係なく、パフォーマンス発揮に必要なフィジカルの基本要素を一定のレベルまで向上させる必要があります。そのため、トレーニング負荷の増大期と積極的な疲労回復期のバランスを整えつつ、計画的にフィジカルを向上・維持させるトレーニングプログラムを構成しています。
- また、事前に競技特性を分析して競技パフォーマンスに影響するセーリングの基本要素を特定し、それらを向上させるためのトレーニングプログラムの枠組み、トレーニング種目選択、負荷の設定等を行っています。

【参考1】トレーニングに関する基本的な考え方

- トップアスリートに至るためには、幼少期より専門的な競技トレーニングを行う必要がある。ほとんどの競技でオリンピック出場選手の平均競技開始年齢が15歳以下であった。ジュニア期から活躍するために中学生、高校生から専門的な競技トレーニングを積む必要がある。
- 一方で、早期専門化によって生じる可能性のあるリスクもある。特に身体的には早期専門化により、局所的な負荷が繰り返し加わり、その後の回復が不十分であるとオーバーユース障害のリスクが増大する可能性がある。そのため、成長・発達過程にあるユース選手のフィジカルトレーニングでは、運動負荷に注意しつつ、右図にある身体機能(機能的パフォーマンス)や運動能力の基盤となる部分(機能的動作)を改善し、強化することによって、「怪我の予防」と「競技パフォーマンスの向上」に繋げていくことが最も重要である。

Step up

機能的スキル
セーリング特有の専門的技術

機能的パフォーマンス (Power = 筋力Force × 速度Velocity)
アジリティ、コーディネーション、スピード、クイックネス、
ストレングス、ジャンプ、プライオメトリクス、リアクション、
SSC、運動学習、持久力、心理状態

機能的動作 (Stability & Mobility)
姿勢、可動域、筋力 (MMT)、関節適合性、運動制御、柔軟性、身体組成
バランス、バイタル、基本動作など

フィジカルテストのコンセプト・意義

- ▶ 継続的なフィジカル強化を行うには、競技パフォーマンスを向上させるためのトレーニングに加え、その効果を推定する「測定・評価」を行う必要があります。「測定・評価」のなかには、体力・運動能力を評価する「フィジカルテスト」、動作を診断する「ムーブメントスクリーニング」、医学的な検査を行う「メディカルチェック」などが含まれ、HOPE育成プログラムでは定期的なフィジカルテストを実施しています。
- ▶ フィジカルテストには、発達過程のモニタリング、トレーニング効果の評価、強み・弱みの把握、トレーニングゾーンの開発、パフォーマンスの予測、潜在力の定量化等、多くの目的があります。また、フィジカルテストは主に機能面からの測定項目であるため、形態面からの測定項目として、長育（身長、身体各部位の長さ）や量育（例：体重、筋量、体脂肪量）も併せて測定します。
- ▶ HOPE育成プログラムにおいては**年に2回の「フィジカルテスト」と「メディカルチェック」**を実施し、設定している基準値を基に選手の身体能力の状況を適宜評価し、トレーニング内容の確認やメディカルサポートを行います。
- ▶ セーリング競技の基本要素としては、①スプリントパフォーマンス、②筋発揮パフォーマンス、③高強度パフォーマンス、④持久力パフォーマンス、⑤アジリティパフォーマンスの5つが挙げられ、フィジカルテストにおいては本五項目をベースに下記【参考1】の通りの測定項目を設定しています。
- ▶ フィジカルテストの結果は、各選手のトレーニングプログラムを調整・最適化するための重要な指標となるとともに、測定結果に基づくフィードバックは、選手一人ひとりの強みと課題を明確にし、個別のトレーニング計画を立てる際に活用できます。また、フィジカルテストを定期的実施することで、長期にわたるトレーニングの進捗を把握し、選手個人の成長や競技レベルの変化を評価することができるようになると共に、選手個人のモチベーションの維持・向上にも繋がります。

【参考1】フィジカルテスト 測定項目

①体組成測定（INBODY・BODPOD） ②最大持久力（2000mローイング） ③筋持久力評価（30秒ローイング） ④等速性筋力評価（BIODEX：膝・体幹/伸展・屈曲） ⑤スプリント能力（30m走） ⑥敏捷性（反復横跳び） ⑦背筋力測定 ⑧シャトルラン

※適宜、測定項目は変更となる可能性があります

【参考2】フィジカルテストの測定基準について

選手個々の特性に応じた測定基準を設定するため、性別、体重、年齢等を基に、公平かつ適切な基準を個別に設けています。基準の設定に際しては、国内外で蓄積されたセーリング競技データや他競技のエリートアスリート基準、さらには各種エビデンスに基づく科学的データを参考にしています。



JAPAN SAILING FEDERATION



オリンピック強化委員会
SAILING TEAM JAPAN

ステップ別年間カリキュラムの概要 (HOPE ユース Basic/Advance/Racing)

- 各分野の専門スタッフによる講習・実技指導を年間を通して実施し、基礎知識の習得に取組みます。
- 適宜、選手・保護者との面談を実施し、課題の共有と目標を明確化し、取組みを実施します。
- 各分野の専門知識について反復的に学習を行うと共に、実践機会を設けて知識の定着を行います。
- 加えて、合宿期間外に月1回を目安にオンライン専門講習を実施予定です（合宿中は実践形式での講習を優先して実施）。

	セーリング技術・理論 (海上練習)	タクティクス ストラテジー	自己PR アウトプット	ルール *理解度確認テスト実施(年末)	フィジカル フィットネス
HOPE ユース Basic / Advance / Racing	セーリング技術 <ul style="list-style-type: none"> ・ヘルム感覚向上 ・ハンドリング向上 ・セールドリム技術向上 ・スピード感覚向上 レースでの再現力 <ul style="list-style-type: none"> ・パフォーマンス発揮 セーリング理論習得 <ul style="list-style-type: none"> ・基礎知識の習得と理解、実戦への応用 ・毎合宿期間の理解度確認テスト 	タクティクス <ul style="list-style-type: none"> ・対艇に対するポジショニング方法の学習と実践 ・レースでの実践、反復 ・コーチ派遣(レース)による、現場での実践指導 ストラテジー <ul style="list-style-type: none"> ・風や潮などの気象条件、基礎知識の取得と予測 ・コーチ派遣(レース)による、現場での実践指導 	<ul style="list-style-type: none"> ・合宿/練習振返り ・現状分析発表 ・講習での学び共有 ・グループディスカッション ・目標設定/年間計画の作成/宣言 ・プレゼンテーション能力向上 	【講習】 <ul style="list-style-type: none"> ・レースで負けないルール知識・実践 ・RRS(第1章～第5章、付則B・PT),WSRR,WCR ・ケースブック・コールブックを活用した事例理解 ・模擬審問(ケーススタディ)での審問、証人対応 ・審問での証言力向上、質問力の習得 ・英語での審問対策：要求書の書き方習得・向上 【実践】 <ul style="list-style-type: none"> ・毎合宿期間中の理解度確認テスト ・ケーススタディ/判断能力向上(パターン・経験蓄積) ・ベア競技における対応方法の共有 ・オンザウォーターアンパイア制での実践練習 ・42条の理解と効果的な42条実践テクニック 	<ul style="list-style-type: none"> ・フィジカル測定(NTC,JISS連携) ・体力測定値確認・フィードバック ・段階的トレーニング実施 ・評価とフィードバックの導入 ・持久力/コアスタビリティ強化 ・SAQトレーニング ・ストレングストレーニング習得 ・セルフストレッチ習得 【講習】 <ul style="list-style-type: none"> ・自主トレ時の個別チェック ・怪我の予防 ・段階的トレーニングの重要性 ・コアスタビリティ/モビリティの必要性 ・セルフケア
	気象・潮 *理解度確認テスト実施(年末)	メンタル	栄養	インテグリティ	その他講習
	<ul style="list-style-type: none"> ・気象基礎知識習得 ・実戦で使える反復説明と理解 ・日々の天気予測/発表 ・日々の現象理解/振り返り ・レースに合わせた予測と対策(目標大会現地の気象情報学習) 	<ul style="list-style-type: none"> ・セルフモニタリング実施1回 ・モチベーションコントロール ・心理的スキル学習 ・セルフコントロールとコピーング方法の学習/活用 ・ピーキング方法の学習/活用 	<ul style="list-style-type: none"> ・スポーツ選手の栄養摂取の基本 ・調理実習(基礎編) ・目的に応じた栄養摂取方法学習(食事タイミング、体重コントロール) ・補食について学習 ・保護者に向けた栄養講習 	<ul style="list-style-type: none"> ・総合的な人間力の向上をテーマにスポーツマンシップ、法令遵守、社会的責任等について学ぶ ・強化対象選手規程 ・SNS発信での注意 ・ルール規則69条 	<ul style="list-style-type: none"> ・英会話レッスン *個別レッスン実施 海外での円滑なコミュニケーションを目指す ・BLS(一時救命処置)講習 年1回 ・ボートリペア/スプライス講習 年2回 ・アンチドーピング講習 年1回 ・メディアTR/マナー講習 年1回 ・SDG's講習/ビーチクリーン 年2回



カリキュラム毎の実施予定スケジュール (HOPE ユース Basic/Advance/Racing)

	セーリング 技術・理論	タクティクス ストラテジー	自己PR アウトプット	ルール	フィジカル		気象・潮	メンタル	栄養	英会話	インテグリティ	その他
					トレーニング	講習						
第1回	合宿毎 に実施 ※オンライン講習等 オンデマンド学習 を活用 ※レースにあわせた 実践指導	※オンライン講習等 オンデマンド学習 を活用 ※レースにあわせた 実践指導	他専門講習に 付随して実施	○	合宿毎 に実施 ※LINEを活用した トレーナーからの パーソナル指導	合宿に 併せて 適宜実施	合宿/指定 大会毎 に実施 ※講習は第3回, 第7回,第11回 に3回実施予定	○		合宿毎 に実施 ※個人レベルに 合わせた 個人レッスン ※個別での自 宅学習ベース (月4回)	○	BLS
第2回				○								SDGs
第3回				○					● ※保護者向け			
第4回				○								
第5回				○								
第6回												
第7回				○				○				メディア
第8回				○							○	SDGs
第9回				○								
第10回									● ※保護者向け			
第11回				○								BLS
第12回				○				○				アンチ ドーピング
Web		複数回					3回	2回 *個別合宿でも クラス毎に実施	2回 ※適宜個人指導			6回程度
対面講習	複数回	複数回	複数回	4回		複数回	3回	3回	2回 ※適宜個人指導		2回	



JAPAN SAILING FEDERATION



オリンピック強化委員会
SAILING TEAM JAPAN

ステップ別年間カリキュラムの概要 (HOPE Basic/Advance/Racing(ACE))

- 各項目の反復学習と豊富な実践機会におけるフィードバックを行いつつ、オリンピックキャンペーンを見据えた各種知見の獲得を目指します。
- 適宜、選手との面談を実施し、課題の共有と目標を明確化し、取組みを実施します。

	セーリング 技術・理論	タクティクス ストラテジー	自己PR ロジカルシンキング	ルール 講習/実践	フィジカル フィットネス	
HOPE Basic / Advance / Racing (ACE) (応用)	・セーリング技術 新技術への取 組み ヘルム研鑽 ハンドリング研鑽 パワー感の研鑽 ・動画、DX機器 活用による分析 ・セーリング理論 改善能力向上	・タクティクス 正確性向上 トラッキング活用し たフィードバックと ケーススタディ ・ストラテジー 気づきと応用 トラッキング活用し たフィードバックと ケーススタディ	・キャンペーン計画策定 ・費用概算算出 ・年間計画作成提出 ・遠征計画作成提出 ・活動実績書作成 ・年間振り返り ・スポンサー獲得を目指 すプレゼンテーション	・レースで相手に勝 つ為のルール実践 ・ケーススタディでの 審問、ウィットネス 対応 ・英語での審問能力 の向上	・ケーススタディ、 タクティクス（パ ターンと経験の実 践） ・オンザウォーターア ンパイア制実践 練習	・体力的側面（持久的パフォーマンス、 高強度運動パフォーマンス、スプリント パフォーマンス、筋発揮パフォーマンス、 アジリティ)それぞれを向上し競技パ フォーマンスを発揮するフィジカルフィッ ネストレーニングの獲得 ・フィジカル測定（NTC・JISS連携） 体力測定値の確認・フィードバック 【講習】 ・自主トレ時の個別チェック ・筋量に関するトレーニングによる影響 専門的体力の獲得
	気象・潮	メンタル	栄養	インテグリティ	その他	
	・全体ミーティング での説明 ・柔軟な判断力 向上と予報の修 正 ・レースに合わせた 予測や対策 ストラテジー応用	・パフォーマンス発 揮の為のピーキング ・目標確認/振り返り ・年間計画に基づ いた個別サポート	・レースに合わせた食事 調整方法の理解と実 践	・総合的な人間力 の向上をテーマに スポーツマンシップ 法令遵守、社会 的責任等につい て学ぶ	・英会話レッスン <u>*個別レッスン実施</u> 海外での円滑なコミュニケーションを目指す ・BLS講習 年1回 ・アンチドーピング講習 年1回 ・メディアトレーニング講習	



カリキュラム毎の実施スケジュール (HOPE Basic/Advance/Racing(ACE))

	セーリング 技術・理論	タクティクス ストラテジー	自己PR	ルール	フィジカル	気象・潮	メンタル	栄養	英会話	インテグリティ	その他
第1回	合宿毎 に実施	合宿・遠征 に併せて クラス内実施	(準備)	○	合宿毎 に実施	合宿毎 に実施	○	○	個別での 自宅学習 ベース (月2回)	○ (ディスカッション)	
第2回			○(発表)	○				○			
第4回											
第10回											
第11回				○				○			BLS
第12回			目標振り返り プロフィール更新	○			○	○			アンチ ドーピング
個別合宿		適宜		適宜			適宜				
合計		適宜	2回	4回			2回	4回		1回	2回

※適宜個人指導



JAPAN SAILING FEDERATION



オリンピック強化委員会
SAILING TEAM JAPAN

栄養教育の目標

- セーリング競技の選手においては特に遠征やレース時に自分自身で栄養管理できる能力が求められます。そのために必要な、アスリートとしての食生活の理解、基礎的な栄養および食品の知識を身に付けることを目標に据えています。
- 単に栄養や運動の知識を身に付けるだけでなく、自分に合った食事方法を見つけ実践できる能力を身に付けることが重要です。
- 育成年代においては普段の食生活が発育や運動パフォーマンスおよび食意識に強く影響を与えることから、家庭等の食環境整備も重要であり、そのため保護者に対する栄養教育も実践し、保護者がアスリートとしての食生活を理解し実践できるようになることも視野に入れています。

【ステップ1】栄養および食品の基礎的な知識の習得（映像視聴による講習、課題実施によって理解度を確認します）

＜具体的な目標＞

- 毎日の規則的な食事、必要に応じた栄養補給ができるよう、栄養学の基礎を学ぶ。また、体重や体脂肪など成長の評価指標を学び、自身の体格評価が適切にできるようになる。
- 現代では市販品や外食での食事の機会も増えていることから、それら食品や料理の知識を身に付け、適切な食品選択ができるようになる。
- 体づくりには栄養補給のみならず、適切な休養が重要である。食事の時間や睡眠の確保など望ましい生活スタイルを構築し、適切なコンディショニングができるための知識を身に付ける。

＜講習内容の例＞

- 栄養素とその働き
- 体の構造と成長の仕組み
- 体格の評価方法
- アスリートとしての食事の組み立て方
- 適切な食べ方
- 市販品や外食の栄養
- 食品選択方法
- 休養と体の成長
- 食事時間のコントロール 等



【ステップ2】知識を活用した食生活の実践（映像視聴による講習、課題実施によって理解度を確認、オンライン面談を実施します）

＜具体的な目標＞

- 艇種、ポジション、レースに合わせた体重コントロール（体づくり）のための食生活について理解する。
- 練習やレースのスケジュールに合わせた食事計画が立てられるようになる。
- その他、暑熱環境や速やかなリカバリーなど、状況に合わせて適切な食事、生活ができるような知識を身に付ける。
- 自分自身で食生活の評価、献立作成ができるようになる。

＜教育内容の例＞

- 体重コントロールの基本（体の変化について）
- 体重コントロールの方法
- 体重コントロールのリスク
- 食事のタイミングと食品選択
- レース時の栄養補給とリカバリー
- 暑熱環境時の対応
- 適切な水分補給
- 献立作成方法
- 面談による食生活の振り返り 等

【ステップ3】レース時に向けた食事計画の実践と評価（海外含む）（対面での講習、面談を実施します）

＜具体的な目標＞

- レース時に適切な食事計画とその実践ができるようになる

＜教育内容の例＞

- 実際の食事計画の評価と振り返り（調理実習や個別面談）

【保護者】栄養教育と家庭における食環境の整備（映像視聴による講習、オンライン面談を実施します）

＜具体的な目標＞

- アスリートとしての食事の基本を理解する
- 家庭において、理想的な食事が提供できる
- 選手の生活を支援、教育できる体制を構築する

＜教育内容の例＞

- 選手に対して行う栄養教育の情報共有（知識習得と意識の共有）
- 家庭における食環境整備の相談、情報提供

2026年 第6期HOPE育成プログラム 年間スケジュール

	HOPE			HOPEユース		
	開催場所	開催日程	日数	開催場所	開催日程	日数
第1回	沖縄/座間味	1/17(土)–1/25(日)	9日	沖縄/座間味	1/3(土)–1/12(月祝)	10日
第2回	沖縄/座間味	2/21(土)–3/1(日)	9日	沖縄/座間味	2/7(土)–2/15(日)	9日
第3回				沖縄/座間味	3/14(土)–3/22(日)	9日
第4回	JISS/和歌山NTC	体力測定 (4月中)	2日	JISS/和歌山NTC	体力測定 (3月中)	2日
第5回				鳥取/境港マリーナ	4/25(土)–4/29(水祝)	5日
ジュニアオリンピックカップ 開催場所：鳥取県/境港マリーナ 期間：5月3日–5月5日						
第6回				神奈川/江ノ島ヨットハーバー	5/16(土)–5/21(木)	6日
江ノ島ウィーク 開催場所：江ノ島 期間：5月21日–5月24日						
第7回				JISS/和歌山NTC	チームビルディング 6/20(土)–6/21(日)	2日
第8回				鳥取/境港マリーナ	7/26(日)–7/31(金)	6日
第9回				鳥取/境港マリーナ	8/17(月)–8/23(日)	7日
20 th Asian Games Aichi-Nagoya 2026 開催場所：愛知県・海陽ヨットハーバー 期間：9/23(水)–10/3(土)						
第10回	JISS/和歌山NTC	体力測定 (10月中)	2日	JISS/和歌山NTC	体力測定 (10月中)	2日
Youth World 選考会/鳥取 境港マリーナ 10/31(土)–11/3(火)						
第11回				鳥取/境港マリーナ	11/4(水)–11/8(日)	5日
2027 HOPE育成プログラム (第7期) 選考会 開催場所：和歌山NTC 期間：11/28(土)–11/29(日)						
第12回	沖縄/座間味	12/19(土)–12/29(火)	11日	沖縄/座間味	12/19(土)–12/29(火)	11日
<div>+</div> <div>上記日程に加え、クラス別強化合宿を下記原則にて開催 ※日程については選手ヒアリングを基に要調整</div> <div>+</div>						
個別合宿	HOPE			HOPEユース		
	各強化拠点	5～8日間×8回 (上記第3回～第10回に相当)	64日 (*目安)	各強化拠点	3日間×10回 (週末3日間)	30日 (*目安)

HOPE：計97日

HOPEユース：計104日



JAPAN SAILING FEDERATION



オリンピック強化委員会
SAILING TEAM JAPAN

担当コーチ一覧

- オリンピアンを含む各分野での経験豊富なJOCナショナルチームコーチ陣が、マンツーマンに近い少人数制にて指導を行います。
- 担当クラスは適宜変動する場合があります。
- その他、トレーナー・栄養・ルール・メンタル等の数多くの専門スタッフが在籍し、それぞれの分野の知見に基づいた指導を実施します。



中村 健一
Kenichi Nakamura
ヘッドコーチ
プログラム責任者



市川 航平
Kohei Ichikawa
コーチA
ユース統括
カイト担当



小菅 寧子
Kosuge Yasuko
コーチA
iQFOiL担当



三部 泰誠
Taisei Sanbu
コーチA
ILCA担当



土居 一斗
Kazuto Doi
コーチA
420/470担当



波多江 慶
Chika Hatae
コーチA
スキフ担当



鈴木 慶
Suzuki Kei
メディカルスタッフ
(トレーナーA)
トレーナー統括

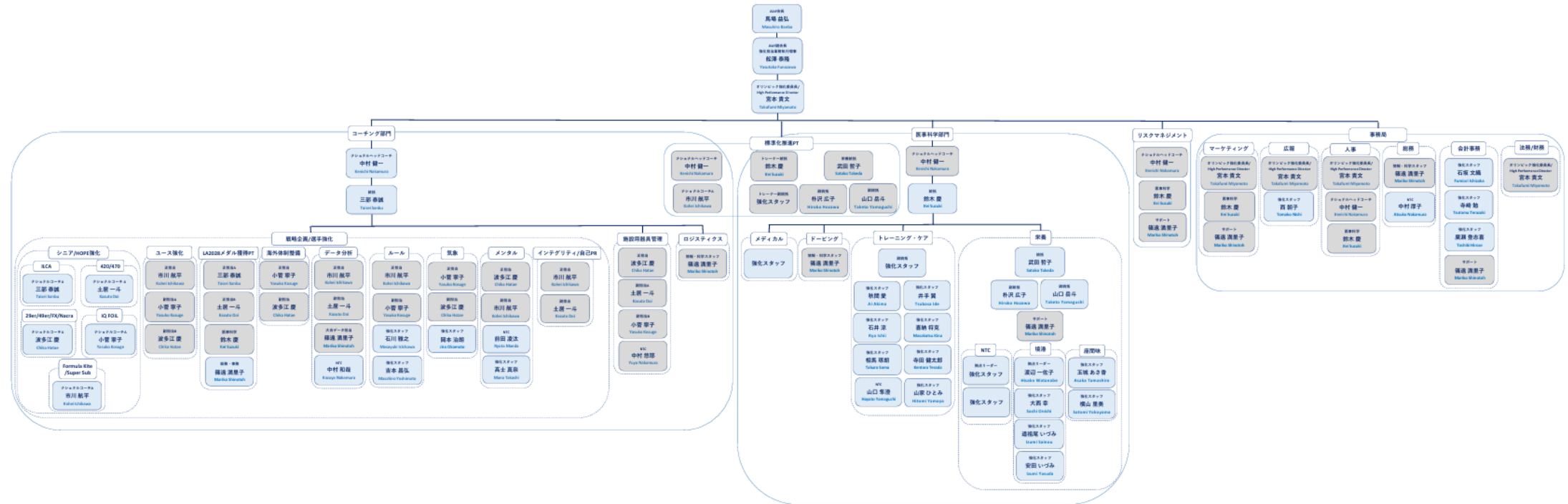


JAPAN SAILING FEDERATION



オリンピック強化委員会
SAILING TEAM JAPAN

オリンピック強化委員会推進体制図（組織図 2025年度版）



HOPE育成プログラム合宿参加費用について

- HOPE育成プログラムの合宿は主にJSCのスポーツ振興くじ(toto)助成を活用して運用しており、助成対象経費の2割は自己負担となっていることから、当該費用等について毎月参加選手の皆様に参加費用としてご負担を頂いています。
- 参加費用に含まれる内訳は概ね下記【参考1】の通りであり、そのうちオリンピック強化委員会担当コーチ関連費用(宿泊費、食費、コーチボート借用料等)については原則日本セーリング連盟の負担とし、参加費用には含んでおりません。
- 金額は合宿開催場所、期間、内容等によって変動しますが、概ね1回あたり3万円～7万円程度をお支払い頂く必要があります。
- 参加費用の算出は下記【参考2】の通りであり、結果の数字を公示に掲載をしています。**スムーズな合宿運営実現のため、出欠の早期確定にご協力をお願いします。**
- 公示発出後に発生した参加期間の短縮等による個別の参加費用の割引や払い戻しはお受け致しかねますのでご了承ください。

【参考1】合宿参加費用の内訳 (合宿1回あたり所要費用3万円～7万円程度)

- ・選手・スタッフ交通費(自宅地域-会場間想定)のうち自己負担部分
- ・選手・スタッフ宿泊費のうち自己負担分
- ・スタッフ(外部コーチ、講師、トレーナー他)謝金のうち自己負担部分
- ・競技艇借用料のうち自己負担部分
- ・会議室・備品等借用料のうち自己負担部分
- ・レンタカー借用費(必要な場合)のうち自己負担部分
- ・管理栄養費(食費)のうち自己負担部分
- ・機材輸送費のうち自己負担部分
- ・英会話講習受講料(助成対象外にて全額負担)
- ・その他、合宿運用にかかる雑費のうち自己負担部分

※オリンピック強化委員会担当コーチ関連費用は含まない

【参考2】合宿参加費用算出の流れ

- ①開催場所・開催時期を決定
↓
- ②選手、スタッフの参加可否を確認し、参加人数を確定
↓
- ③②に基づき、合宿内容や宿泊場所、喫食数等の最終調整を実施
↓
- ④③をベースに、全体の参加費用を算出し、参加選手数で割り返して1人あたり参加費用を算出
↓
- ⑤参加費用を確定し、公示に掲載 **(合宿開催の2週間前までにオリ強ウェブサイトに掲出)**



HOPE育成プログラム対象選手公募について(第6期)

- 毎年10月中旬頃を目途に公募を実施し、新たなプログラム対象選手の選考を実施します。(プログラム定員：最大30名)
- 対象年齢は12歳～21歳、公募時17歳までの選手はHOPEユースBasic、18歳以上の選手はHOPE Basicに分類されます。
- 公募のカテゴリ、及び各カテゴリにおける募集要件については下記及び公募実施時に発出される公示^(※1)をご参照ください。
- シード選手及びクルー候補選手については一次審査が免除されます。また、クルー候補選手・トライアル選手は経験不問です。
- 全てのカテゴリにおいて、保護者・所属先・学校等の理解・承諾が得られていることが前提条件となります。

(※1)公示内容と本資料内容に齟齬がある場合、公示内容を正とします。

1. シード選手

【募集要件】

- ・WSユースワールド・オリンピックを目指す強い意志のある選手
 - ・かつ、下記のうち一つ以上を満たす選手
- <HOPEユース>
- ・前年度/今年度のOP級世界選手権代表選手
 - ・前年度/今年度の種目別全日本(Wスユースワールド種目) 5位以内(U19)*
 - ・前年度/今年度のWSユースワールド代表
 - ・前年度/今年度の種目別ワールド(Wスユースワールド種目) 入賞
 - ・ダブルハンドクラスでベア応募の選手
 - ・前年度/今年度のユースワールド/種目別ワールド(Wスユースワールド種目) 10位以内

<HOPE>

- ・前年度/今年度の種目別全日本(Wスユースワールド種目) 5位以内(U19)*
- ・前年度/今年度のオリンピック種目別 全日本 5位以内*
- ・前年度/今年度のインカレ個人戦(470級) 5位以内*
- ・ダブルハンドクラスでベア応募の選手

*参加艇数10艇以下の場合は優勝のみとする

【選考方法】

書類提出(1次審査免除)



体力測定・試験・面接(2次審査)を実施し合否判定を行う。

選考会公示にて詳細確認のこと

2. クルー候補選手【経験不問】

【募集要件】

- ・WSユースワールド・オリンピックを目指す強い意志のある選手
- ・かつ、身長がオリ強が定める数値(公示を参照)をクリアできる選手

【選考方法】

書類提出(1次審査免除)



体力測定・試験・面接(2次審査)を実施し合否判定を行う。

選考会公示にて詳細確認のこと

3. トライアル選手【経験不問】

【募集要件】

- ・WSユースワールド・オリンピックを目指す強い意志のある選手
- ・かつ、身長でオリ強が定める数値(公示を参照)をクリアできる選手

【選考方法】

書類審査(1次審査)



体力測定・試験・面接(2次審査)を実施し合否判定を行う。

選考会公示にて詳細確認のこと



JAPAN SAILING FEDERATION



オリンピック強化委員会
SAILING TEAM JAPAN

参考資料：選手年齢と乗艇艇種・適正艇種の変化一覧

HOPE育成プログラム			オリンピック 艇種適齢期	年齢	学年	学生選手権等	国民スポーツ大会	各クラス別 全日本選手権		
HOPE ユース	Basic	WSユースワールド 艇種 420M/W 29erM/W ILCA6M/W iQFOiL M/W Kite M/W		8歳	小学2年	全日本選手権	Optimist	Optimist ILCA4 29er Open BIC		
				10歳	小学4年					
				11歳	小学5年					
				12歳	小学6年					
				13歳	中学1年					
				14歳	中学2年					
				15歳	中学3年					
HOPE	トライアル 期間 2年	オリンピック 艇種 470MIX 49er/49erFX ILCA6/ILCA7 iQFOiL M/W Kite M/W Nacra17	470MIX 49er/49erFX ILCA6/ILCA7 iQFOiL M/W Kite M/W Nacra17	16歳	高校1年	全国高校総体	420M/W ILCA 6 M/W 420M/W 29erM/W ILCA6M/W iQFOiL M/W KiteM/W	少年男子：420 少年女子：420 少年男子：ILCA 6 少年女子：ILCA 6	420 ILCA6 29er iQFOIL Kite	
				17歳	高校2年	JOCリトル・シニア				
				18歳	高校3年	Youth World				
				19歳	大学1年/社会人	全日本大学選手権				470団体/Snipe団体
				20歳	大学2年/社会人	全日本女子選手権	470/Snipe			
				21歳	大学3年/社会人	全日本個人戦	470/Snipe/ILCA6			
				22歳	大学4年/社会人	全日本実業団選手権	Snipe 団体/470			
				23歳	社会人					
				24歳						
				25歳						
				26歳						
				27歳						
				28歳						
				29歳						



JAPAN SAILING FEDERATION



オリンピック強化委員会
SAILING TEAM JAPAN

3年後の未来に向けて

SAILING TEAM JAPAN



JAPAN SAILING FEDERATION



オリンピック強化委員会
SAILING TEAM JAPAN